

あなたと本をつなげたい

4月26日、市役所本庁舎前で、移動図書館車「ハローぶっく号」の出発式が行われました。



テープカットの後、金井保育園の園児が風船を飛ばし、晴れやかな出発となりました。ハローぶっく号のデザインを手がけた森美恵子さんは、「この作品（顔部分）は、18年前に親しみと感謝の思いを込めて生み出した作品。波模様の部分は、つながりをイメージしました。テレビやパソコンなどで目が疲れている現代社会なので、この移動図書館車を通して島内の子どもたちがもっと本に親んでもらえることを期待しています。これからこの車が島内を回るのだと考えるととてもわくわく

します。」と語っていました。

搭載冊数は1,600冊。車内を見学した園児たちは、「わー！本がいっぱい!!」「すごーい!」と、言いながら並べられた本に目を輝かせていました。



島内産業の活性化を図る「佐渡産業創造塾 特別セミナー」開催

市では、「島の応援団」推進事業の取組みで、推進委員会の提案事業のひとつである「各種製造業研究技術開発支援事業」を平成22年度から実施しています。同事業は佐渡産業創造塾を22年度は5回、23年度は9回開催し、今年度は毎月開催を予定しています。その一環として、「佐渡産業創造塾 特別セミナー」が4月26日、市役所本庁を会場に開催しました。

参加した島内企業10社72名は、「現場を改善する～改善の切り口と実践ポイントから」をテーマとした講義に、メモを取りながら真剣に聞き入っていました。



ひとりひとりがトキ博士に！

行谷小学校では、トキのために自分たちができることを考え、全校でトキを大切にしようとする気持ちを育てています。「トキ集会」は平成11年から毎年実施されており、今年は5月1日にトキの森公園で行われました。

1、2年生はトキの特徴や生態を学ぶ中で、トキの体重を体感しました。用意された500mlペットボトル飲料3本～4本が入った袋を、木の枝のように腕を広げた児童たちにぶら下げます。1羽分の時は「全然平気!」と言っていた児童も2羽分をかけると…さすがに細い腕が辛そうでした。

3～6年生は18年から始まったトキ解説員を務めました。観光客に声をかけ、手書きの絵を見せた説明やクイズを出すなど、子どもらしい工夫をこらした解説を披露していました。観光客は時折質問を投げかけるなど、児童たちと楽しそうに会話を繰り返していました。

最後に全体会が行われ、全校でトキの歌をうたい、トキ募金の贈呈などがありました。



島外から田植えと生きもの調査で交流

5月13日、新穂正明寺の田んぼで、「佐渡トキ保護活動」を目的とした連携による田植え交流会がありました。

コープにいがた組合員親子等36名のほか、佐渡Kids生きもの調査隊、JA佐渡、佐渡市職員らが集い、田植えと、田んぼの生きもの調査を行いました。生きものは時期的に種類が少ないとのことでしたが、モリアオガエルやドジョウ、マツモムシ、タニシなど見つけていました。

当日は天候もよく、子どもから大人まで泥だらけになって楽しんでいる声が、にぎやかに響いていました。